

「佐渡島の金山」世界遺産推薦内容の改訂を求める声明

強制動員真相究明ネットワーク
共同代表 庵道由香 飛田雄一

2022 年 1 月末、日本政府は佐渡鉱山を「佐渡島の金山」の名でユネスコ世界遺産登録への推薦を決定し、世界遺産委員会に推薦書を送付した。しかし、その段階で推薦書の詳細な内容は市民に公開されなかった。

すでに佐渡鉱山は、新潟県と佐渡市が世界遺産登録をめざすなかで、2010 年に「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」の名で世界遺産暫定一覧表に記載され、世界遺産の候補となっていた。ところが、2020 年にその名を「佐渡島（さど）の金山」と変え、対象を相川鶴子金銀山と西三川砂金山の 2 つの鉱山とした。この案をもとに、日本政府・文化庁の審議会は 2021 年 12 月末、日本政府内で総合的に検討することを条件に、世界遺産の推薦候補として選定した。当初、日本政府は韓国による戦時の強制労働に関する批判から推薦見送りを検討していた。しかし、与党自民党内の朝鮮人強制労働を否定する国家主義者達が、「国家の名誉に関わる事態」などと圧力をかけたことにより、推薦を決定したのだった。

日本政府の推薦書（資産概要）には、次のように記されている。

「佐渡島の金山」は「金に関する鉱山」であり、19 世紀半ばまで「伝統的手工業のみによる採掘」がなされ、鉱山地区と生産組織を伝える集落地区が残るものとして「世界で唯一の鉱山遺跡」である。坑道や排水路などの生産技術、鉱山集落や奉行所跡などの生産体制の双方を示す遺構が「現在でも良好な状態で保全されている点でも世界に類をみない」。「佐渡島の金山」は「手工業による人類の金生産システムの最高到達点」である。全盛期には「世界最大級・最高品質の金を生産した世界に類のない鉱山遺跡」である。

佐渡金山の生産技術は、「機械化鉱山を上回る純度と世界最大級の生産量」をもたらした「高い掘削技術や精錬技術」であり、世界遺産登録基準の人類の歴史の重要な段階を物語る技術的な集合体に合致する。佐渡金山の生産体制は「徳川幕府による長期的・戦略的な鉱山経営」によるものであり、「民衆に育まれた鉱山由来の文化」があり、登録基準の文化的伝統の証拠にあたる。遺跡の価値を裏付ける豊富な歴史史料も存在する。

しかし、このような遺産の説明には大きな問題がある。

第 1 に、金の生産に限定することで、銀、銅を産出した歴史が排除される。第 2 に、期間を江戸期に限定することで、歴史全体を示そうとしない。第 3 に幕府の封建的管理体制が肯定的に描かれ、その下での強制労働や身分制の問題点が示されない。第 4 に伝統的手工業を賛美しているが、その技術が西洋由来であることが示されない。第 5 に「世界に類のない」「金生産システムの最高到達点」などという誇大な評価、賛美である。

つまり推薦書では、世界遺産登録をすすめるために、佐渡鉱山の歴史を、江戸期、佐渡の金生産での手工業の技術史へと歪め、縮めているのである。それにより、江戸期の佐渡相川の鉱山町での民衆の歴史、近代に入ってから三菱資本と労働者の歴史、戦時の朝鮮人強制労働の歴史が示されない。江戸後期の鉱山の衰退にはふれず、「徳川幕府による長期的・戦略的な鉱山経営」、「金生産システムの最高到達点」などと賛美され、民衆文化については鉱山関連の神事、祭礼などを付け足しているにすぎない。

ほんらい、佐渡鉱山の説明においては、金、銀、銅が産出された場であることが示されねばならない。佐渡鉱山での製錬技術の灰吹法は朝鮮経由で伝わり、水銀による製錬法はスペインが南アメリカの鉱山で開発したものが伝えられた。排水のための水上輪（アルキメディアン・スクリュウ）という装置も、佐渡の南沢疎水道（排水用坑）の測量術も西洋の技術である。佐渡での伝統的手工業の技術は西洋由来、中国・朝鮮経由のものが多いのである。江戸期の幕府による鉱山経営は周辺農民からの過酷な税収奪をともなうものであり、それは佐渡での農民の一揆につながった。幕府による身分制度は人間外の身分を固定化し、幕府はその身分を利用し、鉱山での治安維持や刑務を担わせた。幕府は江戸期後半、鉱山での排水労働のために江戸などから無宿人を駆り集め、鉱山に連行し、労働を強制した。幕末には 28 人が坑内火災により死亡する事故も起き、その追悼碑も残る。鉱山の労働者は珪肺や煙害、事故により短

命のものが多かった。

このように江戸期の佐渡鉱山の歴史では、産出品目、鉱山技術の国際移入、幕府による税収奪と身分制による統治、幕府による強制労働、鉱山労働者の歴史などが多面的に記されねばならない。にもかかわらず、「佐渡島の金山」の説明では、それがなされていない。また、現地には、堅坑や選鉱場など近代の鉱業遺産が数多く残っているにもかかわらず、近代の佐渡鉱山の歴史には全く触れようとしないのである。

このような内容で推薦をすすめるなか、日本政府は戦時での朝鮮人の強制労働について、「韓国側の独自の主張は受け入れられない」（2022年1月末）とし、強制労働を否定する立場を明確にした。また、朝鮮人の強制労働を否定する歴史否定論者の喧伝が強められた。しかし、80年前の戦時に、日本政府が労務動員計画を立て、佐渡鉱山へと朝鮮人1500人以上を動員したことは歴史的事実である。それが植民地朝鮮の民衆にとって強制的な動員であり、その労働が強制であったことは否定できない。佐渡での江戸期の金生産の賛美と戦時の朝鮮人強制労働の否定とは一体の関係にあるのである。

歴史否定論の側に立つ日本政府の姿勢は植民地主義の継続を示すものであり、植民地統治を経験し、その克服をめざす世界の国々に不信感を与えるものである。また、過去の侵略戦争を反省して設立されたユネスコの理念にも反する行為である。

以上のような見地から、私たちは「佐渡島の金山」の推薦内容の抜本的な改訂と全ての推薦関係資料の市民への公開、そして、日本政府による朝鮮人強制労働の認知を求めるものである。

連絡先 兵庫県神戸市灘区八幡町 4-9-22（公財）神戸学生青年センター気付
強制動員真相究明ネットワーク
TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019
E-mail shinsoukyumei@gmail.com